

いもう 葦毛通信



ミカワツツジ

2022年5月31日
豊橋市文化財センター
豊橋市松葉町3丁目1
TEL: 0532-56-6060

No. 126

1、葦毛湿原国指定記念シンポジウムを開催します！

昨年度は、葦毛湿原が国指定天然記念物に指定されたことを記念してシンポジウムを計画していましたが、新型コロナウイルスが広がって愛知県に緊急事態宣言が発令され、二回にわたって延期しました。今年度は改めて仕切り直し、7月9日に計画して準備を進めています。シンポジウムの内容は以下の通りです。

題名：国指定記念シンポジウム（第6回葦毛湿原再生フォーラム）

「国指定天然記念物と葦毛湿原」

開催日：2022年7月9日（土）12時30分開場、13時30分開演、16時30分終了

会場：豊橋市公会堂（国登録有形文化財、豊橋市八町通二丁目22番地）

定員：600名（新型コロナウイルスの感染状況により定員を変更する可能性があります。）当日受付先着順（申し込み不要）、参加料：資料代100円

交通：JR東海・名鉄「豊橋駅」より、市内電車「市役所前」下車徒歩2分

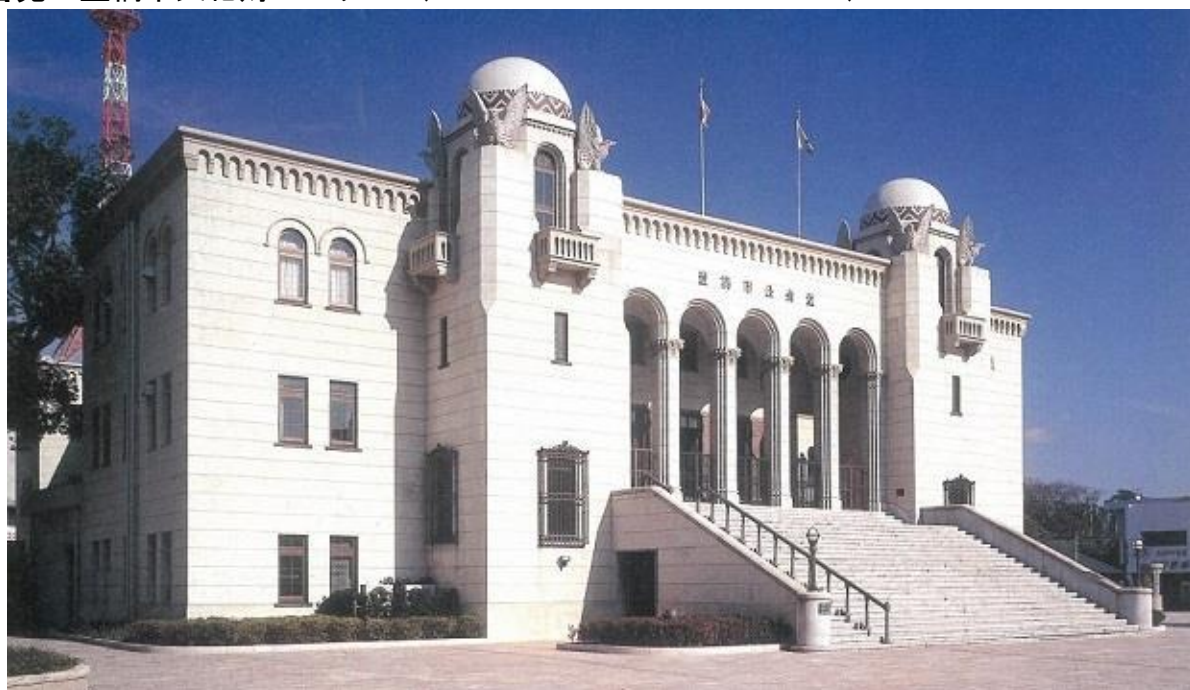
目的：葦毛湿原が令和3年10月11日に国指定天然記念物に指定されたことを記念して国指定天然記念物とは何かを解説し、葦毛湿原の価値について考えます。大規模植生回復作業の歴史を報告し、自然再生や植生回復をどのように行うべきかについて市民の皆さんに紹介するとともに、次世代に継承していく天然記念物の重要性をお伝えします。

内容：「葦毛湿原の大規模植生回復作業」 賛 元洋（豊橋市文化財センター）

「里山の湿地としての湧水湿地」 富田啓介（愛知学院大学准教授）

「国指定天然記念物と葦毛湿原」 田中厚志（文化庁文化財調査官）

問合先：豊橋市文化財センター（☎0532-56-6060）



国登録有形文化財「豊橋市公会堂」（平成10年9月2日登録）：昭和6年（1931）建設

2、2021 年度モニタリング報告ー2

葦毛湿原では春の花が終わり夏の花に交代しつつあります。ミカワバイケイソウやカザグルマが終わり、トキソウやハンカイソウが咲き始めました。

1) ハルリンドウ

葦毛湿原のハルリンドウは昨年(2021年)の4月9日に5,680花が開花しましたが、今年は4月19日の9,203花が最高開花数でした。開花のピークの時期は例年並みです。開花数は昨年より60%ほど増え、2018~2020年とほぼ同数になりました。

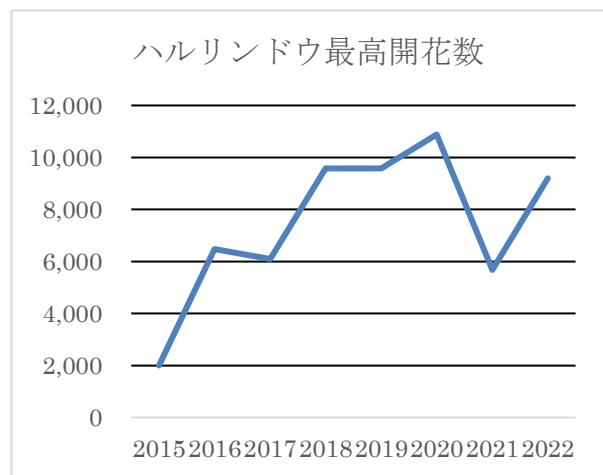
地点別では、I地点では1,720輪(2021年)から846輪(2022年)になり減っていますが、それ以外のすべての地点で増えています。これは昨年と逆のパターンになりました。なぜI地点だけが逆のパターンになるのかはわかりません。今年はミカワバイケイソウも増えており、何らかの関連があるのかもしれない。ミカワバイケイソウとハルリンドウは同じようなパターンで毎年増減を繰り返しているようで、カザグルマやトキソウ等は明らかに開花のパターンが異なります。

M・N地点では刈り取ったイヌノハナヒゲを現地に残して(赤色のラインの内側)遷移を進める実験をしています(葦毛通信 No. 110 参照)。予想通りハルリンドウが進出し、分布範囲を広げています(画面左下)。また、ここ以外にも複数の地点で広がっています。



M地点のハルリンドウ (2022年4月13日)

年度	観察日	最高開花数	増加率
2015	4月18日	2,000花	1.00
2016	4月11日	6,475花	3.24
2017	4月19日	6,098花	0.94
2018	4月13日	9,584花	1.57
2019	未計測	(9,584花)	1.00
2020	4月14日	10,882花	1.14
2021	4月9日	5,680花	0.52
2022	4月19日	9,203花	1.62

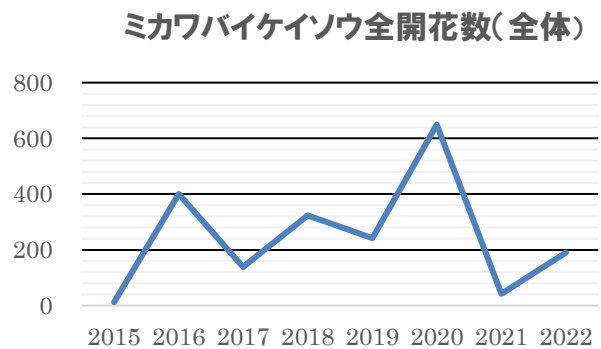
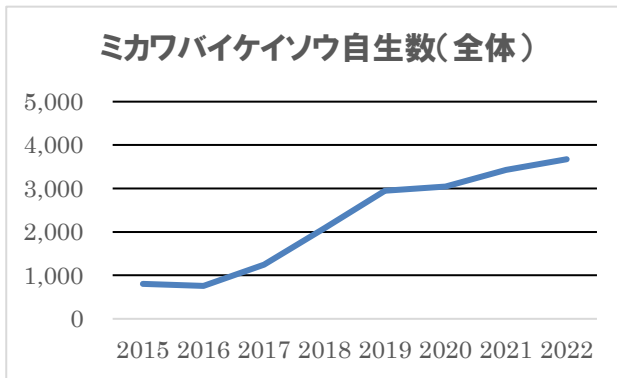


2) ミカワバイケイソウ

ミカワバイケイソウの開花数にはばらつきがあり、昨年は極端に少ない年にあたり、これまでで最低の開花数を記録しました。全体で42花が開花しましたが、一昨年の約6%となり極端に減りました。今年は190花で昨年よりは増えましたが、来年は減るのか、あるいは増えるのかはわかりません。ミカワバイケイソウの開花はほぼ隔年で増減を繰り返していますが、場所によって開花状況は異なっています。

自生数は、株数ではなく茎の本数を計測しています。国有林内も指定地内も微増という状態です。自生数は増え続けていますが、開花数が大きく増減するのは、根に栄養分が十分に蓄積されてから開花しているためと考えられます。

年	国有林内		指定地内		全体	
	総開花数	自生数	総開花数	自生数	総開花数	自生数
2015	—	—	12	808	12	808
2016	318	—	83	758	401	758
2017	86	639	52	611	138	1,250
2018	252	1,400	71	687	323	2,087
2019	116	2,249	126	698	242	2,947
2020	526	2,188	123	858	649	3,046
2021	14	2,701	28	730	42	3,431
2022	73	2,797	117	877	190	3,674



国有林内のミカワバイケイソウ (2022年4月30日)

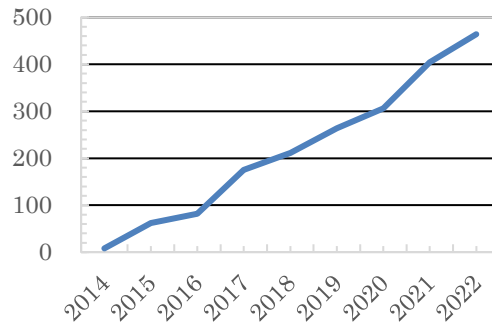
3) カザグルマ (愛知県絶滅危惧II類)

カザグルマは今年も順調に開花数が増え、5月9日には464花が確認できました。L地点はわずかに減りましたが、L地点以外では開花数が増え、新たにF地点でも開花するようになりました。

L地点の四の沢沿いでは、161花から147花に減りましたが、O地点では2花から23花に、F地点では新たに26花が確認できました。

カザグルマは記録を取り出した2014年から毎年同じようにほぼ一直線に右肩上がりが増え続けています。

カザグルマ総開花数



年度	総開花数
2014	8
2015	62
2016	82
2017	175
2018	211
2019	264
2020	306
2021	404
2022	464



L地点のカザグルマ (2022年5月9日)

3、オトシブミの産卵

R地点のエゴノキにエゴツルクビオトシブミが産卵し、揺籃 (ようらん) を作りました。下写真中央は成虫の食痕、右は揺籃で卵が1個産み付けられており、幼虫の揺り籠です。これまでも産卵行動は見られましたが、最近あち

こちで見られるようになり、特に目立つようになってきました。ナミハンミョウも増え、中央広場付近の自然歩道でも頻繁に見られるようになりました。



エゴツルクビオトシブミ♂ (2022年5月9日) 成虫の食痕 揺籃 (幼虫の揺り籠)